

研究会報告

「非平衡複雑多体系ダイナミクスと統計」

国際高等研究所 2006年10月24日～26日

まえがき

川崎 恭治 (福岡工業大学 エレクトロニクス研究所)

川崎が平成18年度の高等研フェローになった機会にその研究活動の一環として研究会「非平衡複雑多体系ダイナミクスと統計」を10月24-26日に高等研で行った。題は一般的であるが内容は構造ガラス転移とその周辺で、参加者15名ほどのささやかなものである。近年わが国でもようやく構造ガラス転移を統計力学の基礎に立ち返って理解しようとの動きがでてきて、これに関連する研究を現在進めている、主に国内の研究者に集まってもらった。外国人は川崎の共同研究者である Bongsoo Kim 氏が韓国から参加された。内容を絞り込んだおかげで活発な討論があり、密度の濃い研究会であった。この分野の我が国の研究者はまだまだ少数であるが将来成長する事が期待される。

講演者の人選と交渉、プログラムの作成などについては川崎も意見を述べたが佐々真一氏が一手に引き受けられた。不手際も多少あったかもしれないが研究会の成功は彼の尽力に負う所が大きく感謝にたえない。また資金面や施設使用で援助を頂いた国際高等研究所(金森順二郎所長)及び補佐して頂いた牧井俊明氏にも謝意を表したい。